

平成 27 年度健康生活科学研究所外部評価委員会（健康科学研究センター）【事前評価】

個票 No.	研究課題名	コ メ ン ト
1	歯科口腔保健 と作業関連疾 患との関連に 関する実証研 究	<p>【提案機関へのアドバイス】】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>今後、高齢化していく日本にとって非常に重要な研究であり、意義のある成果の創出を期待する。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①研究所にとって、歯科領域の研究は初めての試みである。従って、歯科口腔に関する疾患について勉強する事をおすすめする。 ②研究員にとって、自身の研究領域を広める機会となることを期待する。 ③厚生労働科学研究費補助金等の公的研究資金による研究の実施は高く評価できる。

平成 27 年度健康生活科学研究所外部評価委員会（健康科学研究センター）【事前評価】

個票 No.	研究課題名	評価 結果	コ メ ン ト
2	薬剤耐性菌の耐性遺伝子保有実態に関する調査研究	採択	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <div data-bbox="586 327 2040 470" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>薬剤耐性菌の調査研究は重要な課題であり、検査技術の構築は行政検査機関における最優先事項である。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本研究において確立された迅速検出法の適性が広げれば、大きな成果が期待でき、必要性及び有効性は高まる ②薬剤耐性菌の調査研究は世界レベル、国内レベル、地域レベルのいずれにおいても重要な課題である。 ③多剤耐性菌における院内感染のアウトブレイクは、患者に重大な影響を及ぼすため、行政には医療機関への全面的な支援が期待される。 ④薬剤耐性遺伝子に関する高度な検査技術を構築することは、行政検査機関における最優先事項である。 <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <div data-bbox="586 903 2040 1046" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>民間会社や衛生研究所と連携することで、より有効性の高い研究の展開が期待できる。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①薬剤耐性遺伝子の迅速検出法の確立に力をそそぎ、確立された迅速検出法が、耐性をつくる多くの薬剤に適応できるかも検討してほしい。 ②本研究の基礎実験においては、製薬会社と資料提供や共同研究の実施などで連携することを期待する。 ③国立感染症研究所を中心とした研究班等と組織レベルで連携を強化することで、より有効性の高い研究の展開が期待できる。 ④患者は複数の施設間を移動しており、薬剤耐性菌保菌者の分布を調査することも、本研究の一助とすることが期待できる。

平成 27 年度健康生活科学研究所外部評価委員会（健康科学研究センター）【事後評価】

個票 No.	研究課題名	コ メ ン ト
3	違反食品の発見のための迅速検査体制の強化	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>緊急性を要する課題であるが、着実に成果をあげており、県民の安全・安心に大きく貢献した。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①創意工夫により、既存手法に比較して迅速・簡便・高感度な分析法の開発改良を行っており評価できる。 ②緊急性を要する新たな健康課題に対し、高度な技術をもって目標を達成し、県民の安全・安心に大きく貢献した。 ③研究成果を学術誌や学術集会に積極的に公表していることも高く評価できる。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>玄米中のカドミウムの測定や、TPP（環太平洋パートナーシップ）に関連し、残留基準の適応性の調査をしてはどうか。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本研究において開発した分析法を使用し、兵庫県内各地で収穫された玄米について、カドミウムの含有量を測定してはどうか。 ②TPP 協定に関連し、残留基準の県内での適用性を調査してほしい。

平成 27 年度健康生活科学研究所外部評価委員会（生活科学総合センター）【事後評価】

個票 No.	研究課題名	コ メ ン ト
1	製品由来の化学物質による吸入および経皮暴露に関する基礎的調査	<p>【評価の結論に至った理由・考え方】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>県民の安全・安心に有用な研究であり、分析法の確立に一定の成果をあげている。</p> </div> <p>《主な意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①放散や接触に伴う経皮吸収により健康影響が懸念される化学物質の健康被害の未然防止や、相談・苦情に対応できる能力を、生活科学総合センターが備えていることには意義がある。 ②複数の成分を1回の分析によって検出できる手法の確立など、実地的な活用につながる基礎的データが蓄積できており、評価に値する。 ③これまでに蓄積された情報をもとに、センターの有する人材・設備を活用した本試験法の確立は、県民の安全・安心を確保するために有用である。 ④少ない予算と時間と人員にも関わらず、県民の健康を守るために必要な研究テーマについて、一定の成果をあげている点は評価できる。 <p>【提案機関へのアドバイス】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>他の研究機関等と連携しながら、研究成果の有効な活用と県民等への情報提供に努めること。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ①有効な分析方法であると考えられ、速やかで効率的な分析ができると考えられるので、今後は、実際の商品で懸念されるものがあつたときに、すぐにこの分析を活用できる体制を維持していただきたい。 ②分析を実検体に適用させ、その有効性を実証する方向に向かうことを期待する。 ③外部の他機関とも情報を交換しながら、より有効で効率的な分析が、他機関も含めできるようになることが望まれる ④他機関との技術交流やOBの活用など工夫をし、引き続き研究を継続してその成果を業界や県民生活へのフィードバックに努めることが必要である。 ⑤研究成果の広報があまりされていないように見受けられるので、今後は消費生活センターや県民に分かりやすい内容と方法で情報提供をしていただきたい。 ⑥各研究機関や企業等と情報共有や連携をして、成果の活用に関し、今後、努めていただきたい。